

希望郷いわて

安家川河川改修の概要

岩手県県土整備部河川課
沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター



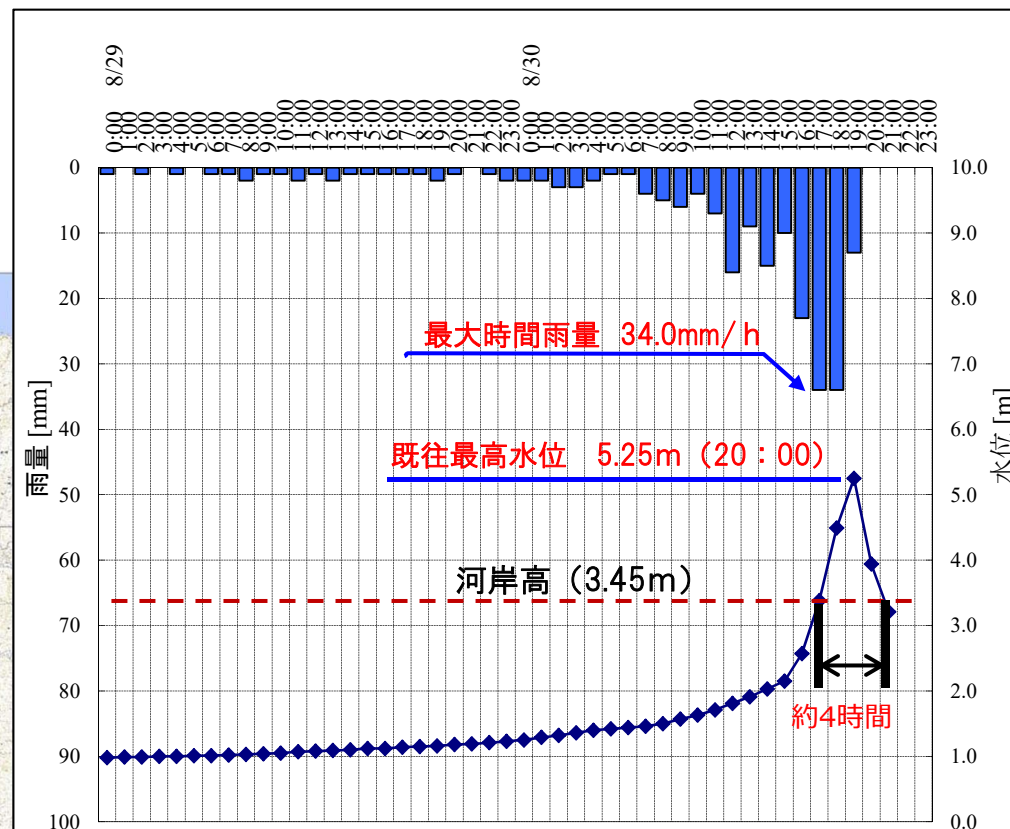
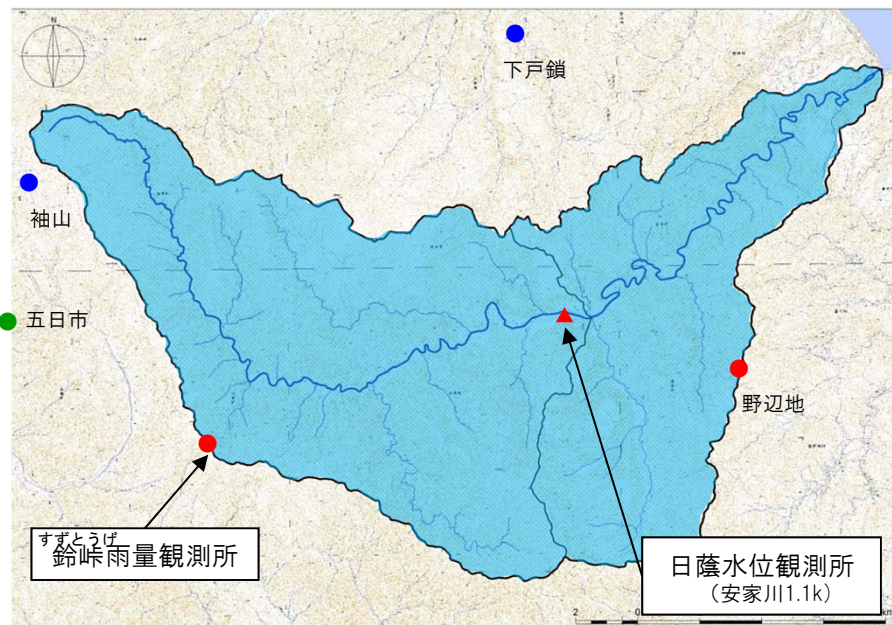
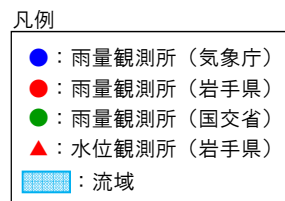
平成28年8月29日～30日出水概要

■出水概要

安家川に設置した日蔭水位観測所において、**現況河岸高3.45mを大きく上回る水位5.25mを記録**





- ・出水の特徴：**約4時間にわたって現況河岸高を超過**
- ・安家川の状況：**集中豪雨により、流域全体で溢水
流木により橋梁部で閉塞・溢水が発生し、浸水被害が拡大**
- ・浸水被害：**床上浸水101戸、床下浸水10戸の建物被害が発生
県道や町道が冠水**

■水位・時間雨量



安家川 被害の概要

【凡例】

-  H28. 8. 30浸水区域
-  流失
-  床上浸水
-  床下浸水

①中の橋の流木閉塞状況



②左岸側の溢水被災状況



③右岸側の溢水被災状況



④右岸側の溢水被災状況



⑤右岸側の溢水被災状況



⑥安家橋の流木閉塞状況



⑦右岸側の溢水被災状況



これまでの主な洪水被害

安家川水系の近年の洪水は、平成2年、平成18年、平成28年などに発生している。

平成2年11月には、流域全体で床下13棟、平成18年10月には床下浸水6棟、床上9棟の被害が発生している。

【安家川における主要水害状況（昭和38年以降）】

洪水年月日	24時間雨量 (mm/24hr)	3時間雨量 (mm/3hr)	被害原因	浸水面積 (ha)	床下浸水 (棟)	床上浸水 (棟)	公共施設被害 (千円)	被害区域
S50.3.20~ 3.25	-	-	豪雨、突風	-	-	-	3,754	岩泉町
S55.8.14~ 9.5	65.1	24.4	豪雨	-	-	-	11,365	岩泉町、野田村
S57.9.10~ 9.13	90.8	48.2	豪雨、台風	-	-	-	26,789	岩泉町、野田村
H2.11.3~ 11.6	151.6	45.7	豪雨、風浪	0.07	13	-	-	岩泉町
H6.8.12~ 8.23	89.7	45.9	豪雨、落雷	-	-	-	3,962	岩泉町
H18.10.4~ 10.9	202.9	29.1	豪雨	0.1775	6	9	105,217	岩泉町

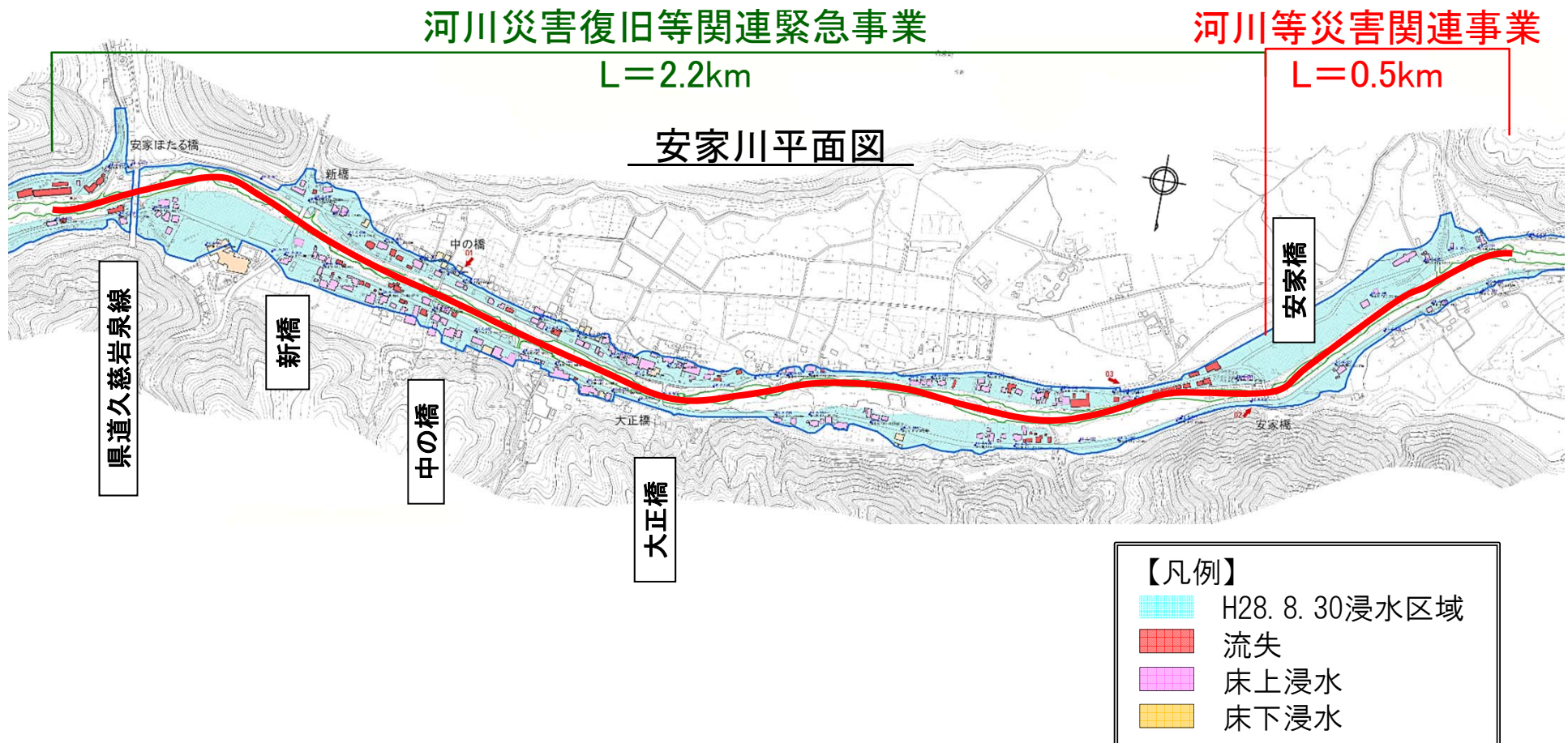
出典：水害統計

対応方針

■改良復旧の実施

今回の洪水で現況流下能力を超過し、家屋浸水等が発生した日蔭地区及び松林地区において、河川等災害関連事業及び河川災害復旧等関連緊急事業を導入

⇒河道拡幅や河床掘削を行い河川の断面を拡大し、家屋浸水被害の防止・軽減を図る。



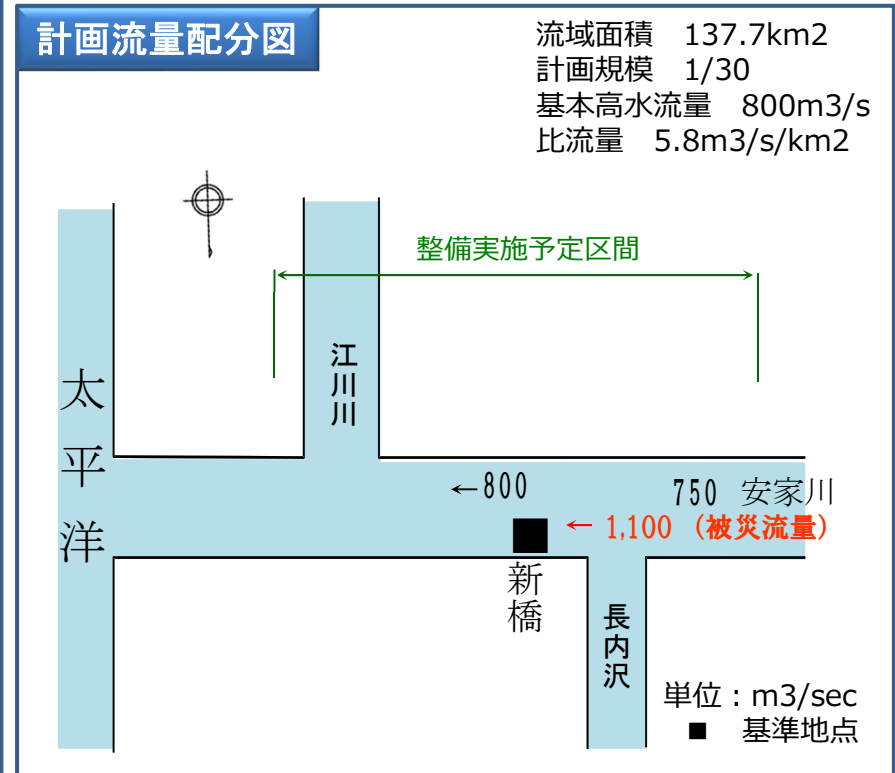
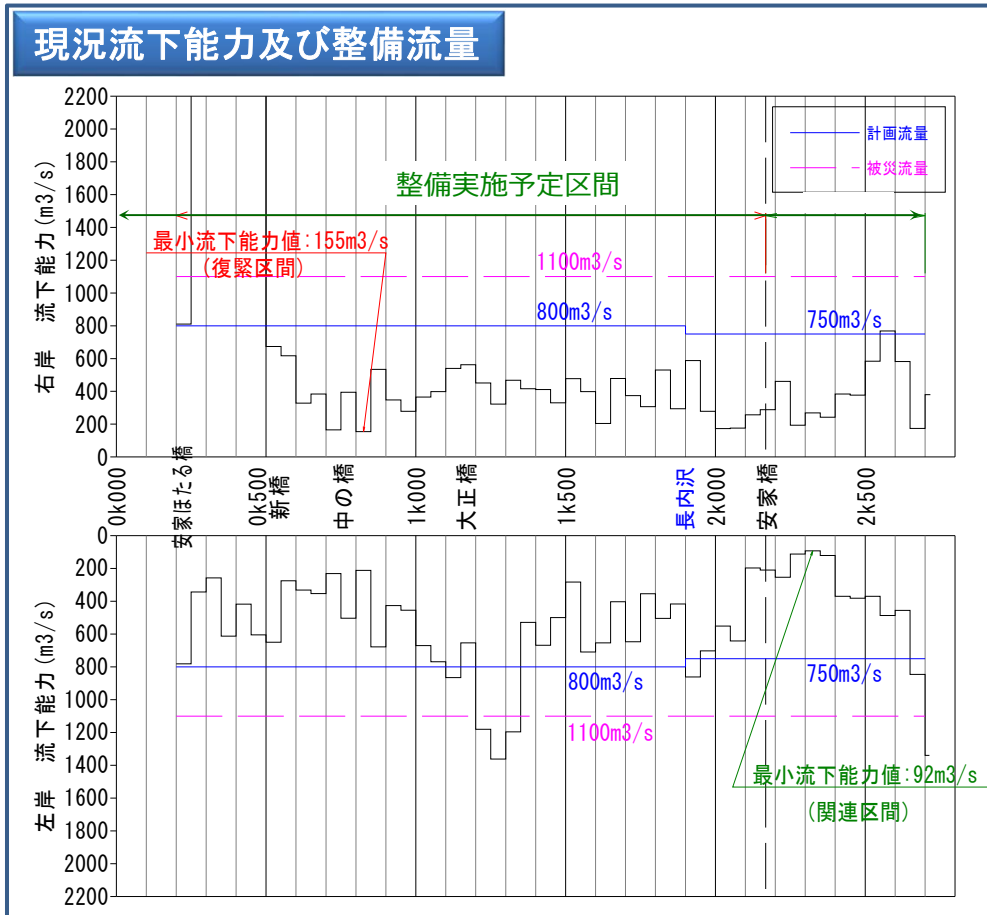
整備対象流量について

計画規模に対し、流下能力が不足

(現況の最小流下能力：上流関連区間で92m³/s、下流復緊区間で155m³/s程度)

← 拡幅や河道掘削

800m³/s(1/30確率)に対応する計画

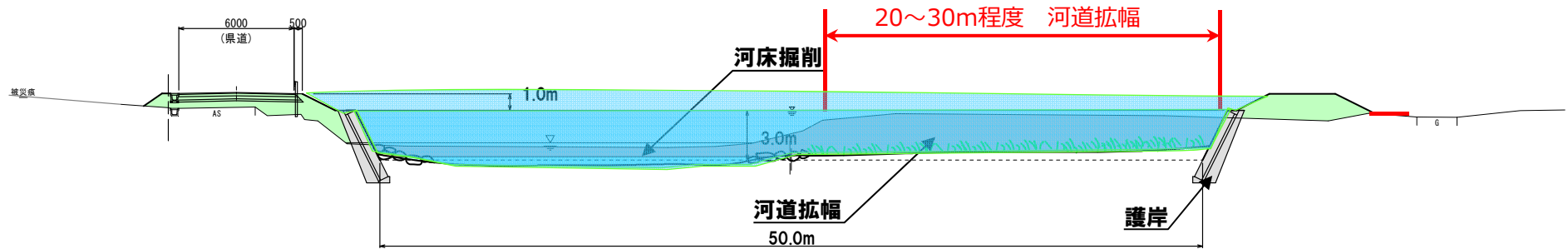


なお、台風第10号洪水による出水流量は、洪水痕跡等から約1,100m³/sと推定される。

改良復旧事業について

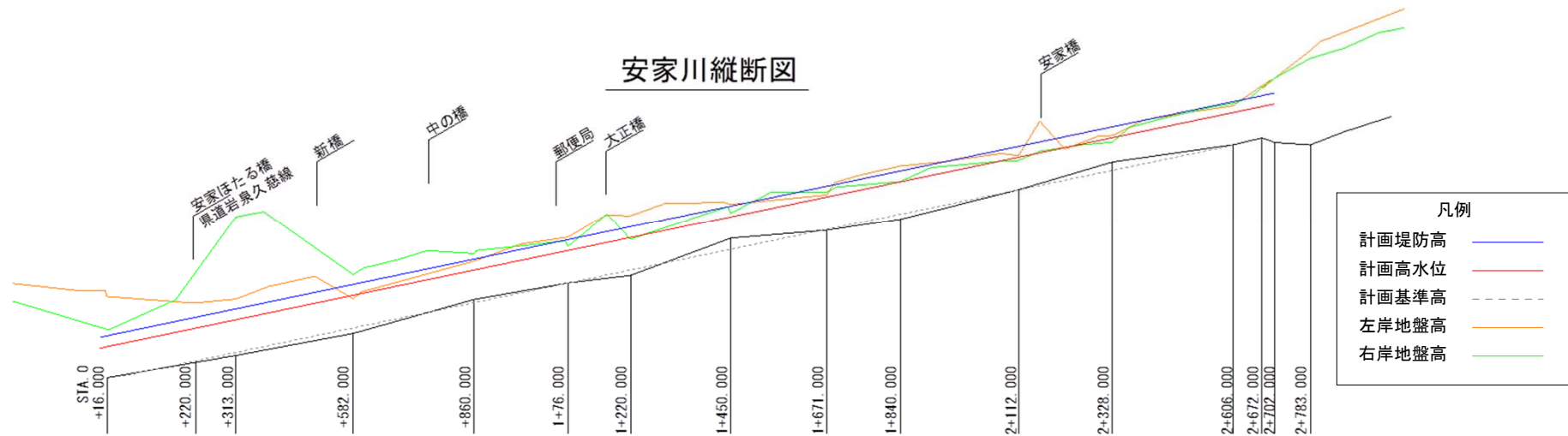
■断面形状の考え方

- ・ 流下能力の向上のため、河道拡幅、河床掘削、築堤を組み合わせる整備
- ・ 堤防天端幅は4.0m 左岸は県道普代小屋瀬線とあわせて7.0m



■縦断形状の考え方

- ・ 計画の河床勾配は概ね現況と同程度とし、急激な勾配変化点を作らないよう計画



河道計画(1/3) 安家産直付近

平面図



■ 平面計画における川づくりのポイント

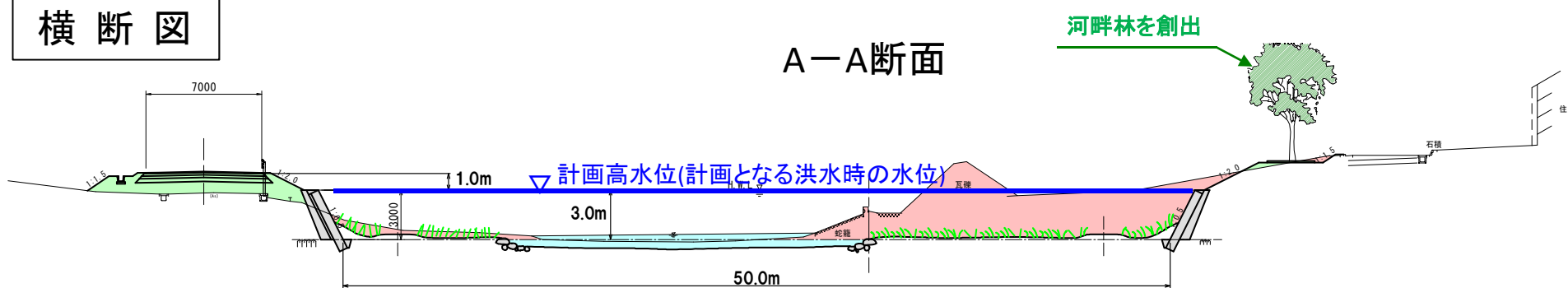
- 【川の線形】 現況河川の線形を踏襲し、屈曲部は内岸側に拡幅。
- 【川幅】 約50m。現況の滞筋を活かし、概ね県道と町道の間を河川として取り込む。
- 【滞筋】 0k600、0k900付近の自然落差工を保全。
- 【河畔林】 現況の河岸を活かし、良好な河畔林を保全。
- 【斜路・階段】 新橋上流左右岸においては、河川へのアクセスが可能となる斜路を整備。その他、左右岸に階段を数箇所整備。

河道計画(1/3) 安家産直付近

空中写真

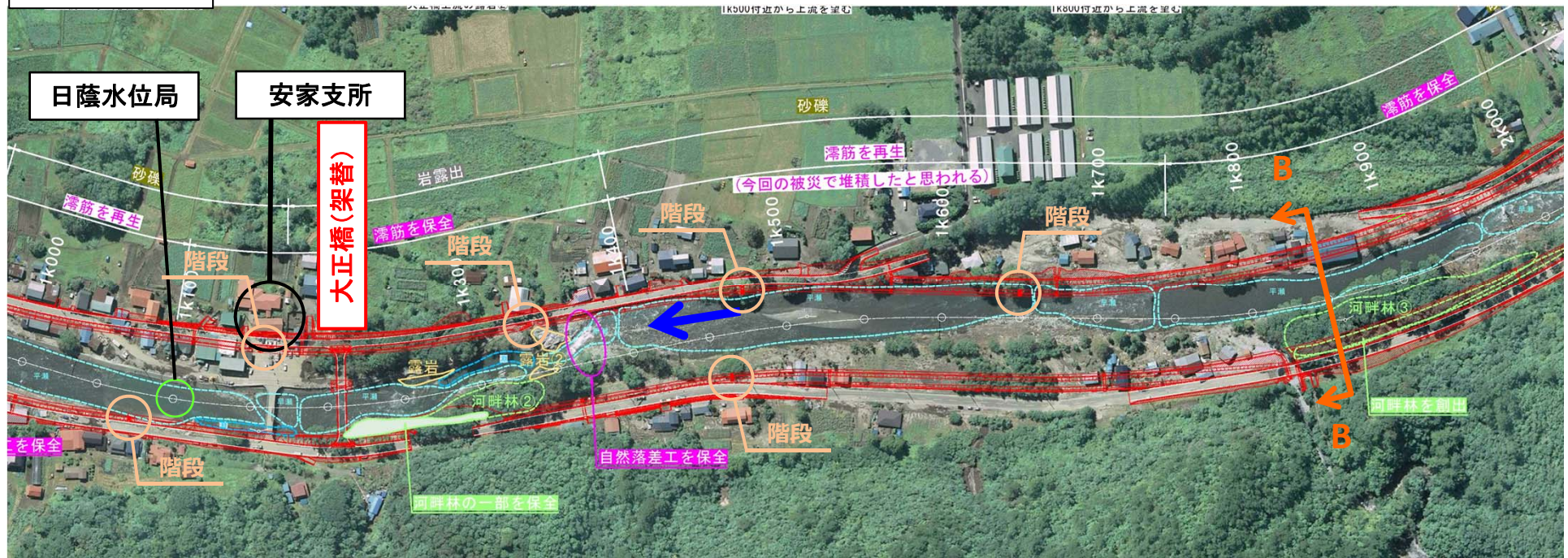


横断図



河道計画(2/3) 安家橋下流部付近

平面図



■ 平面計画における川づくりのポイント

- 【線形】 現況河川の線形を踏襲し、滑らかな線形とする。
- 【川幅】 約50m。現況の霽筋を活かし、概ね県道と町道の間を河川として取り込む。
1K300左岸の県道部（山付け部）をコントロールとして右岸側に拡幅。
- 【霽筋】 1K400付近の自然落差工を保全。
- 【河畔林】 1K300付近左岸の河畔林を保全。1K800付近左岸に河畔林を保全。
- 【階段】 河川へのアクセスが可能となるよう左右岸に階段を数箇所整備。

河道計画(2/3) 安家橋下流部付近

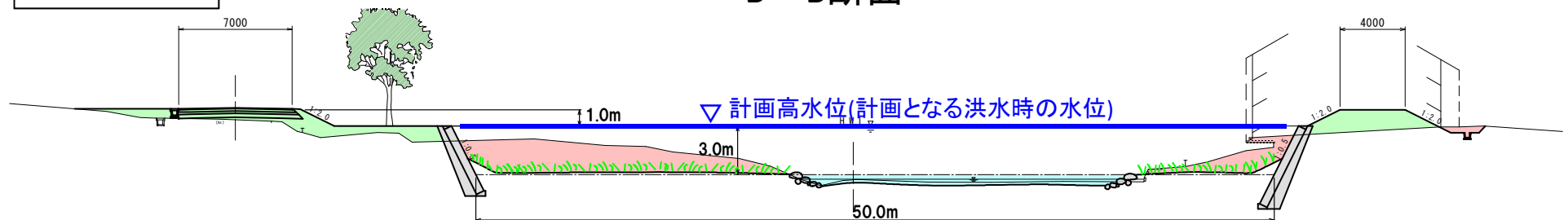
空中写真



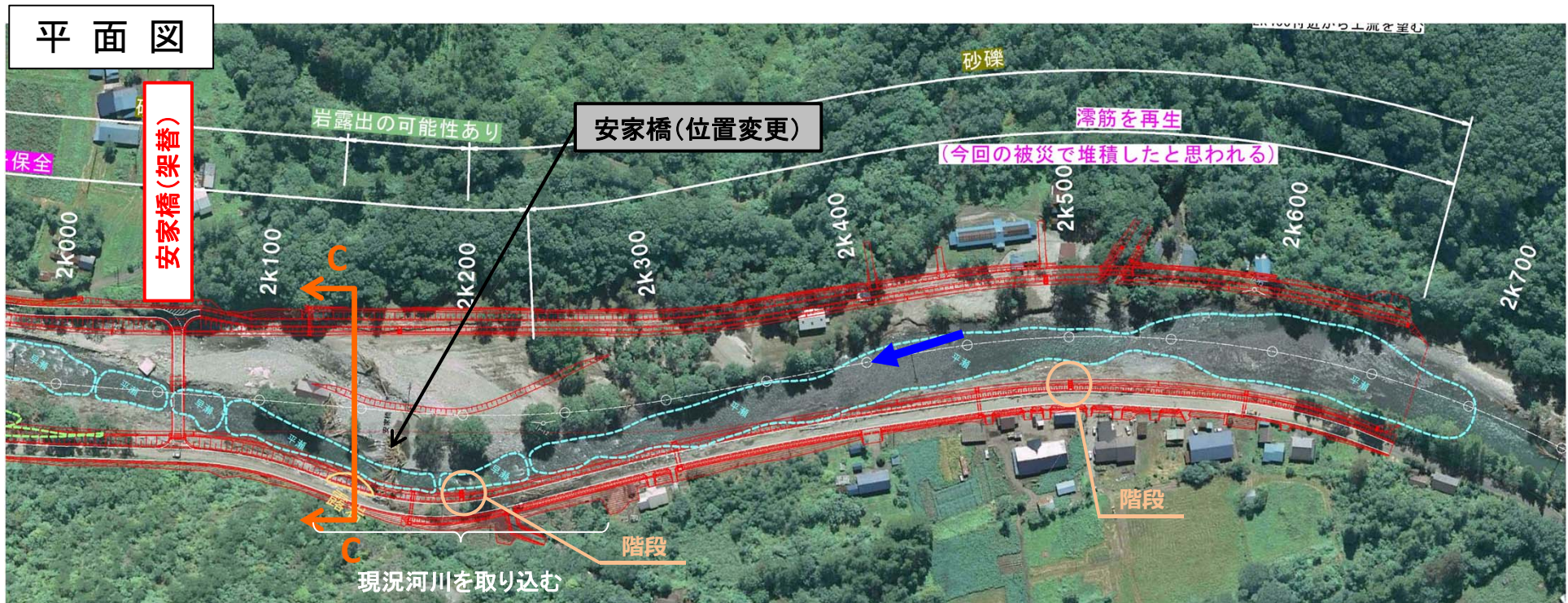
..... 護岸天端

横断図

B-B断面



河道計画(3/3) 安家橋上流部付近

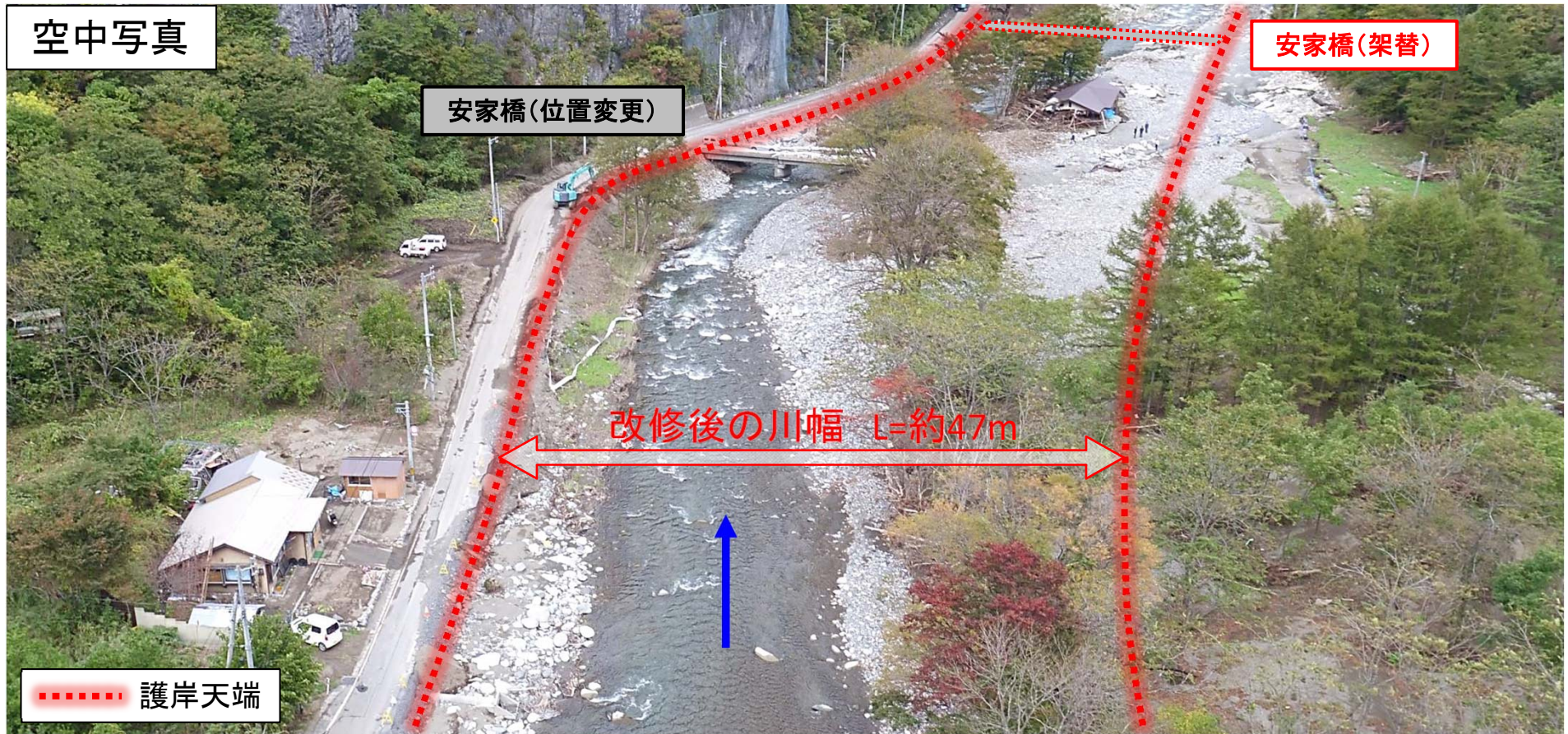


■ 平面計画における川づくりのポイント

- 【線形】 現況河川の線形を踏襲し、滑らかな線形とする。
- 【川幅】 約50m。現況の滞筋を活かし、県道と町道の間を河川として取り込む。
安家橋左岸の県道（山付け部）を意識し、右岸側に拡幅する。
- 【滞筋】 2K200付近は内岸側（右岸側）に拡幅し、左岸側の現河道を取り込む。
- 【階段】 河川へのアクセスが可能となるよう左右岸に階段を数箇所整備。

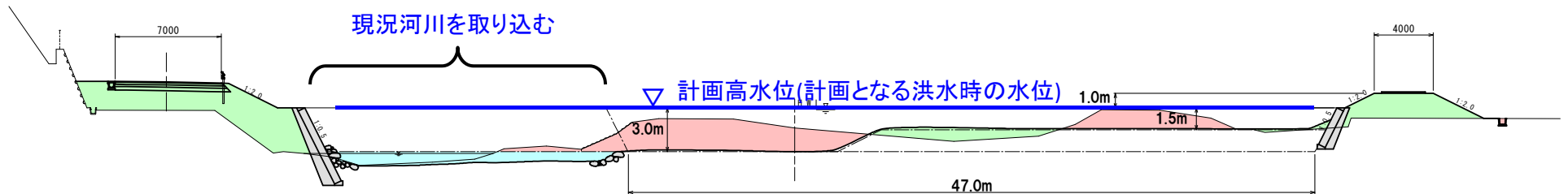
河道計画(3/3) 安家橋上流部付近

空中写真



横断図

C-C断面



川づくりのポイント

【生物の生息生育環境に配慮した川づくり】

- 現況の滞筋、瀬・淵を保全・復元
- 縦断の連続性、支川との連続性の確保
- 現況の岩河床の活用
- 現況の河床材料（石、砂）等を工事後に投入
- 多様な水際環境の保全・復元
- 水域と陸域の連続性の確保
- 河畔林の保全・創出

【河畔林の保全】

河畔林の一部を保全し、
良好な河川環境に配慮



1K800付近の河畔林

【縦断の連続性、多様な水際環境】

自然落差が形成する縦断の連続性を保全。
現況の河床材料を川に戻し、良好な河床、
水際環境を復元。



自然落差が形成する縦断の連続性を確保。

【岩河床の活用】

岩河床を掘削する際は、岩河床周辺の水の働きにより
形成される瀬・淵等の良好な河川環境に配慮する。

治水支障とならない程度に岩河床を残す



安家川河川改修後イメージ

岩河床下流の大きな淵を保全

川づくりのポイント

【現況の滯筋、瀬・淵を保全・復元】

現況の滯筋を保全し、良好な河川環境を維持する。



自然落差工を保全

現状の滯筋を保全



【多様な水環境を創出】

現況の河床材料を利用した水制工を設置し、平坦な滯筋に変化をつける。



生物の生息環境に配慮し、露岩を利用したワンドを創出する。

露岩

ワンド

